

平成12年4月14日
(社)国土緑化推進機構

第11回「みどりの文化賞」受賞者の決定について

1 趣 旨

社団法人国土緑化推進機構は、国民参加の森林づくりを推進する「緑と水の森林基金」による事業として、緑豊かな国土と新しい森林文化の創造に役立てるため、平成2年に緑や水・森林に関し顕著な功績のあった者を顕彰する「みどりの文化賞」を創設しました。

2 第11回受賞対象の選考

毎年、緑や森林に関するテーマを設定し、そのテーマに関して最も貢献された者を受賞対象とすることとしております。

今回(第11回)は、『「国民参加の森林づくり」運動の推進(民間公益団体による緑化活動支援)』をテーマとして社団法人ゴルファーの緑化促進協力会(会長 中山素平氏)に決定しました。

3 業 績

- (1) 昭和40年代半ばから60年代にかけて、「21世紀グリーンプランの構想」の発表(同46年,経済同友会),財団法人日本緑化センターの設立(昭和48年),「国民参加の森林づくり」答申(昭和61年「21世紀の森林づくり委員会」)など、現在に至る緑化運動推進の提言や組織作りが行われた。
- (2) 昭和51年、これら一連の緑化運動推進の態勢整備に当たって大きな役割を果たされた中山素平氏のリーダーシップの下に、「ゴルファーの善意による社会公共施設の緑化」をキャッチフレーズに(社)ゴルファーの緑化推進協力会が設立され、地方緑化事業と全国緑化事業を2本柱として積極的に緑化活動を展開し、大きな成果を上げてきた。
- (3) このうち、地方緑化事業については、都道府県緑化推進委員会、国立公園関係団体等に助成金が交付され、学校・公園・河川・福祉施設などの社会公共施設の緑化事業が実施されており、全国レベルでの「国民参加の森林づくり」運動の推進に大きく寄与している。創設以来現在までに、全国の学校・公園・河川・福祉施設等の公共施設5,800ヶ所に150万本の植樹が行われている。(累計事業費 49億円)
- (4) また、全国緑化事業は、全国の見地からの緑化推進のモデル事業の実施、各種シンポジウム開催等の普及啓発活動、緑化推進に当たっての各種基礎調査・研究、NGOによる自然保護活動支援などからなっている。主要な事業成果としては、防災モデル植樹(平成10年度自治大臣賞受賞)、雲仙普賢岳被災地復興記念植樹、松くい虫対策の試験研究や抵抗性松苗木の配布、酸性雨実態調査、ゴルフ場水質調査、地球温暖化対策などが挙げられる。(累計事業費 10億円)

- (5) 「国民参加の森林づくり」運動は、国民一人ひとりが、各々の可能な方法で緑化活動に参加することを目指す国民運動であり、当協力会の活動は、今後の民間公益団体による緑化活動推進のモデルとして高く評価されるものである。

4 表 彰

- (1) 「みどりの文化賞」の表彰は、来る4月29日、日比谷公園小音楽堂前広場で開催する第11回森と花の祭典－「みどりの感謝祭」の式典において行います。
- (2) みどりの文化賞受賞者には、
ア みどりの感謝祭名誉総裁秋篠宮文仁殿下の表彰状
イ 社団法人国土緑化推進機構から賞牌及び賞金100万円が授与されます。

問い合わせ先
(社)国土緑化推進機構
担当：茂田
電話 3262 - 8451

参考 - 1

1 「みどりの文化賞」の経過

- (1) 第 1 回 (テーマ) 戦後の森林造成と国土緑化
(受賞者) 徳川宗敬 氏 (故人)
- (2) 第 2 回 (テーマ) 木の文化の継承, 発展に貢献した者
(受賞者) 西岡 常一 氏
- (3) 第 3 回 (テーマ) 森林と水との関わりを社会にひろめる
(受賞者) 財団法人 水利科学研究所
- (4) 第 4 回 (テーマ) 森林と水の守り手, 山村を支える(個人)
(受賞者) 黒澤 丈夫 氏(群馬県上野村村長)
- (5) 第 5 回 (テーマ) 森林と水の守り手, 山村を支える(団体)
(受賞者) 宮崎県諸塚村
- (6) 第 6 回 (テーマ) ボランティア活動による森林づくり
(受賞者) 草刈り十字軍
- (7) 第 7 回 (テーマ) 持続的森林経営をめざす森林づくり
(受賞者) 高橋 延清 氏
- (8) 第 8 回 (テーマ) 大都会のなかでの自然豊かな森林づくり
(受賞者) 明治神宮の森
- (9) 第 9 回 (テーマ) 海を蘇らせた森林づくり
(受賞者) えりも岬の緑を守る会
- (10) 第 10 回 (テーマ) 「森林文化」の新たな展開
(受賞者) 筒井 迪夫 氏

2 みどりの文化賞選考委員(五十音順)

梅原 猛 (国際文化研究センター顧問)

片山 正英 (日本林業協会名誉会長)

加藤 芳郎 (漫画家)

木村 尚三郎 (東京大学名誉教授)

高木 文雄 (森とむらの会会長)

「社団法人 ゴルファーの緑化促進協力会」の概要

1. 沿革

(1) 設立

昭和51年9月(環境庁の許可)

(2) 活動目的

ゴルフ場の協力を得て、広くゴルファーの方々などから緑化協力金を募り、学校・公園・河川・福祉施設等の公共施設の緑化と環境保全を推進し、健康で明るい社会づくりに貢献する。

なお、今後は地球環境対策の重要性に鑑み、海外の植林事業をも支援することを検討してる。

(3) 緑化協力金累計 79億円 (昭和51年創立～平成11年12月)

2. 主要施策

(1) 地方緑化事業

全国の学校・公園・河川・福祉施設等の公共施設に植樹した本数..... 150万本
(昭和51年創立～平成11年12月) (5,800ヶ所)

(2) 全国緑化事業

松くい虫対策(昭和53年～)

- ・松くい虫防除対策の試験研究助成開始
- ・松くい虫防除対策セミナーを全国で開催
- ・抵抗性松苗木の配布を開始(昭和58年～)
(ゴルフ場をはじめ、名勝松島、佐渡などの公共的な場所へ配布)
- ・シンポジウム「日本の森を誰が守るかーマツが消えていくー」を開催

酸性雨の実態調査(昭和62年～)

- ・酸性降下物対策検討委員会を発足させ、酸性雨の調査研究に着手
- ・『新版酸性雨ー複合作用と生態系に与える影響ー』を発行

都市の防災植樹(平成6年～)

- ・「都市の防災植樹」の調査研究をまとめる
- ・シンポジウム「都市の防災植樹」を開催
- ・東京都練馬区立大泉中学校で「防災モデル植樹」を実施(～平成9年)
(平成10年2月「第2回防災まちづくり大賞」で自治大臣賞受賞)
- ・『防災植樹のすすめー森災が街を襲う日ー』を発行(平成9年)

雲仙普賢岳被災地復興記念植樹を実施(平成8年～)

- ・5年間5千万円寄附

ゴルフ場水質調査(平成2年～)

- ・ゴルフ場の農薬使用に伴う水質汚濁防止調査研究を開始
- ・『ゴルフ場農薬ー水質調査マニュアル』発行(平成3年)

都市近郊の緑地であるゴルフ場が果たす積極的な役割の提言を目指す「ゴルフ場の生物生息環境に関する調査研究」に着手(平成10年～)

地球温暖化防止対策(平成10年～)

- ・「森林等のCO2吸収に関する調査研究」まとめる
- ・「CO2固定・地域環境改善等に資する新たな森林・緑空間の創出に関する調査研究」に着手
- ・『陸上生態系による温暖化防止戦略』を発行

芝生で校庭緑化(平成8年～)

- ・モデル実施に向けて、調査研究を大学研究室に委託

普及啓発活動（昭和61年～）

- ・シンポジウム「緑の危機」を東商ホールで開催（昭和61年）
- ・シンポジウム「考えよう緑と環境」を農林年金会館で開催（平成2年）

上記の他、協賛事業として

自然保護NGO助成（昭和61年～）

- ・自然保護ボランティアファンド設定基金1千万円を拠出。以後毎年助成金を拠出
- ・「足尾に緑を育てる会」に助成（平成9年～）

東京都緑倍増計画へ協力のため東京都都市緑化基金へ5年間で5千万円寄附

（昭和61年～）

「花と緑の国際博」の花博写真美術館で「公共施設緑化・国立公園写真展」を主催（平成2年）